**復興工業団地へのロボットテストフィールド誘致について**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　商工労政課

　平成２８年４月２０日、福島県は、国と県が共同で進めている福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想のうち、ロボット産業の拠点施設である「ロボットテストフィールド」と「国際産学官共同利用施設」を南相馬市原町区上渋佐・下渋佐・萱浜地内の復興工業団地に設置することを決定しました。

　ロボットテストフィールド等は、陸・海・空のロボットの国内開発拠点であり、平成２８年度内の着工を目指し、平成２９年度までの２年間で、国が補助金約１３５億円を投じ、福島県が整備を進めるものです。

**１　復興工業団地の概要**



**840 m**

**464 m**

**760 m**

**310 m**

**1,327 m**



○住　　所：南相馬市原町区上渋佐・下渋佐・萱浜地内

○面　　積：総面積 ７０．７ｈａ (第1期工事33.1ha、第2期工事37.6ha)

○整備状況：第１期工事(第１工区)：平成２８年度竣工予定

**２　復興工業団地を南相馬市が候補地として提案した理由**

　本市としては、ロボットテストフィールドは、ロボットの国内開発拠点になり得るものと認識し、ロボットテストフィールドの構想が示された当初からこれまでの間、国及び福島県に対し、積極的な誘致活動を展開してきました。

施設の必要面積が約５０ｈａと示され、本市としては必要面積をほぼ充足できる復興工業団地がロボットテストフィールドの適地であると判断し、福島県に対し候補地として提案したところ※１、これまでの取組みが実を結び、この度、「ロボットテストフィールド」及び「国際産学官共同利用施設」の誘致に成功したものであります。

※１　南相馬市の他、浪江町、川内村、楢葉町そして広野町が福島県に対し候補地を提案。

**３　「ロボットテストフィールド」と「国際産学官共同利用施設」の概要**

ロボット産業は、今後の成長が期待されている新産業分野です。

国及び福島県は、ロボットテストフィールド等を活用したロボット産業の発展を期待しています※２。

ロボットテストフィールドでは、今後、災害対応、インフラ点検、物流等で活躍が期待できる無人航空機や災害対応ロボット等を中心に実際に飛行試験等を行うとともに、ロボットの性能が評価できるような設備の整備が検討されています。

また、国際産学官共同利用施設では、製品の改良を行うために必要な設備（各種試験装置・加工機等）が整備され、地元企業の技術支援を行うほか、セミナーや研修をはじめとした人材育成の機能を整備することが検討されています（共同利用施設は、ロボットテストフィールド内に整備予定です。）。

今後、福島県は、整備に向けた設計を進め、平成２８年度内の着工を目標としています。

※２　国の研究会の報告書「ロボットテストフィールド・国際産学官共同利用施設（ロボット）活用検討委員会　中間整理　平成２８年３月」によると、例えば、ドローン等の無人航空機を活用したサービス及び機体販売の国内の市場規模は、３０億円（平成２７年）から１，０００億円（平成４２年）に成長すると推計されています。

**４　ロボットテストフィールドを整備することによって**

　　福島県は、「イノベーション・コースト構想」の推進により、ロボットテストフィールドや楢葉町に整備されているモックアップ施設等を中心として、福島県浜通り地域にロボット産業を集積させ、ロボット産業を福島県の主要産業に成長させていく方針です。

ロボットテストフィールド等が立地するメリットを最大限に活用し、本市としては、　ロボット関連企業の誘致について、国、県と連携し、積極的に取り組む考えであります。

また、来訪者が増えることによる効果を地元経済へ波及させることも重要であり、商店等と連携して魅力あるまちづくりに努め、さらなる交流拡大や人材の確保に結びつける考えであります。

【担当課：経済部商工労政課企業支援係　℡0244-24-5264】